令和7年度

消防本部 総務課の方針書

組織名	消防本部 総務課
所属長名	加藤　真

1. 組織の使命（ありたい姿）

健全で士気の高い職場環境の整備と人材育成を推進し災害に備えます

2. 組織の抱える課題（現状）

1、職員の健康増進と公務災害・事故防止
2、資格取得の促進、職員研修の開催など人材育成の継続
3、消防団員の処遇改善と消防本部・消防団の連携強化

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、市民から信頼される堅実な業務の遂行
2、専門的な知識と技術を持つ消防職員の育成と人材確保
3、消防団員の確保と時代に合った消防団活動の支援

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民から信頼される堅実な業務の遂行
	取組内容	1、職員の健康増進支援と働きやすい職場環境の整備 2、服務規律を遵守し士気の高い組織づくり 3、安全管理の徹底と公務災害・事故防止対策の推進
(2)	実現したい成果	専門的な知識と技術を持つ消防職員の育成と人材確保
	取組内容	1、消防業務に関連する資格取得の奨励 2、資格取得職員を中心とする職員研修・教養訓練の実施 3、高い志と使命感を持ち消防職員を目指す人材の確保
(3)	実現したい成果	消防団員の確保と時代に合った消防団活動の支援
	取組内容	1、計画的な消防団の装備拡充 2、消防団協力事業所、消防団応援の店事業を通じた消防団活動の支援 3、消防団員の負担軽減を目的とした訓練大会のあり方に関する検討

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民から信頼される堅実な業務の遂行
・酷暑期の消防活動における熱中症対策を強化したほか、出動隊が活動後に行う予防的なストレスケアを継続し、心身の健康維持に努めた。
・各所属長と意思統一を図り、コンプライアンス活動などを通じて、服務規律を遵守し使命感をもって職務にあたる組織づくりを図った。
・月例の安全衛生ミーティングを継続し、季節ごとの留意点や対策を各所属長が共有するなど、安全意識の向上に努めた。

（2）専門的な知識と技術を持つ消防職員の育成と人材確保
・消防学校初任教育7名、消防操法指導員講習3名、女性消防操法指導員講習2名、幹部教育2名、救急救命士養成研修1名及び惨事ストレス研修1名が各課程を修了した。
・専門的な研修等を修了した職員が習得した知識と技術を活かし、各種訓練の計画や指導において中心的な役割を担うことにより、職員教育の質の向上を図った。
・職員採用試験に向け、試験案内の範囲を拡大し募集を行い、一次試験を実施した。

（3）消防団員の確保と時代に合った消防団活動の支援
・消防団員が使用する高性能防火衣、高視認性活動服及び雨衣などの購入に向け、関係各課と共に優先順位の検討を行った。
・消防団協力事業所事業において、新たに1事業所の申請があり認定数は63事業所に増加した。
・消防訓練大会における新たな種目の実施に向けたプロジェクトチームを消防本部内に設置し、実施要領等の具体的な検討を行った。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民から信頼される堅実な業務の遂行
・惨事ストレス対策を継続すると共に、健康診断及び二次検診の受診を奨励し、職員の健康増進を支援する。
・各所属長と意見交換を重ね、服務規律の遵守及び事務ミス根絶のための取組みを徹底し、職員の自覚を深め使命感をもって職務にあたる組織づくりにつなげる。
・公務災害の防止に向け、安全管理対策の徹底に加え、ミーティング等を通じ安全意識の醸成を図る。

（2）専門的な知識と技術を持つ消防職員の育成と人材確保
・秋田県消防学校専科教育（警防科、救助科、火災調査科、特殊災害科、危険物科、救急科、救急救命処置再教育）に20名入校のほか、大型自動車免許2名、小型船舶免許1名の資格取得を推進する。
・消防学校など研修機関において各課程を修了した職員を講師とする教養訓練等を計画し実施する。
・職員採用二次試験を実施し、真摯に消防職員を目指す人材を確保する。

（3）消防団員の確保と時代に合った消防団活動の支援
・関係各課と協力し消防団車両及び小型ポンプの更新配備を進めると共に、個人装備の配備拡充を図る。
・消防団協力事業所、消防団応援の店事業加入促進に向けた広報を継続し、消防団活動に対する理解と協力を求め、消防団員の確保につなげる。
・消防団員の負担軽減を目的とした消防訓練大会の実施要領について、年度内の実施計画策定を目指す。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防本部 予防課の方針書

組織名	消防本部 予防課
所属長名	佐々木　馨

1. 組織の使命（ありたい姿）

火災の未然防止と被害の軽減を図ることで安心できるまちづくりを進めます

2. 組織の抱える課題（現状）

1、火災予防対策の推進
2、事業所における各種法令違反の是正
3、人材育成と効率的な職場環境づくり

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、出火防止や被害軽減を図る火災予防対策の推進
2、事業所に対する適切な防火指導の推進
3、人材育成と効率的な職場環境の推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	出火防止や被害軽減を図る火災予防対策の推進
	取組内容	1、気象状況等を踏まえ出火防止に向けた適時的確な警戒巡回の実施 2、関係機関との連携、各種イベント、情報発信ツールによる予防広報の推進 3、一般住宅の住宅用火災警報器の設置と維持管理の推進
(2)	実現したい成果	事業所に対する適切な防火指導の推進
	取組内容	1、事業所に対する消防法令違反の是正及び適正な防火管理の指導 2、危険物施設に対する事故防止対策や違反是正指導の推進
(3)	実現したい成果	人材育成と効率的な職場環境の推進
	取組内容	1、火災原因損害調査や防火査察能力の向上を主眼とした研修会の実施 2、職員による予防技術資格の取得の促進 3、各種予防事務処理の簡素化とデジタル化の推進

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）出火防止や被害軽減を図る火災予防対策の推進
- 火災予防警戒巡回を、ゴミ焼き等からの延焼火災が多発する春先を中心に、延べ388回実施したほか、防災無線を利用した火災予防広報を8回、市報5回、ホームページ8回、など防火広報を重点的に行ったことで、シーズン中のゴミ焼き等延焼火災がゼロ件。その他、火災が多発した7月・8月にはかまくらFMや安全安心メールを活用した即効性のある広報を実施。
- 火災予防を目的とした原野焼却における延焼防止対策について消防団、関係部局と共有を図った。また横手警察との合同チラシ配布や、婦人火災予防組合による消防訓練大会でのPR活動のほか、幼年消防クラブによる塗り絵
- 絵画展を実施し、期間途中の9月末までに1.438人の来場者があった。引き続き広く火災予防啓発を実施していく。
- 高齢者を対象とした「いきいきサロン」への出席14回、延べ171名に対しての防火講話のほか、園児に対する「花火教室」や「地域座談会」等の防火指導を30回実施。
- 住宅用火災警報器の設置調査を471回実施、183件の設置増加となる。

（2）事業所に対する適切な防火指導の推進
- 年度当初の重大違反施設3件の是正を完了したが、新たに1件の重大違反を覚知している。現在関係者と協議を進め、年度内の早期是正に向けた指導を行った。
- 春の火災予防運動、夏季立入検査などに伴う事業所への立入検査を162件実施し、防火管理、消防用設備等の指導、違反是正を推進している。
- 危険物安全週間に伴う危険物施設への立入検査145件のほか、危険物安全協会との合同研修会を実施し、事故予防対策を推進している。危険物施設における事故ゼロ継続中。

（3）人材育成と効率的な職場環境の推進
- 「火災原因損害調査」の現場における若手職員の指導を23回、延べ112人に対して実施したほか、「防火査察」においても778回、延べ511人に実施し、能力向上に繋げている。
- 予防技術資格取得希望者を中心に、共有パソコン等による質疑応答や意見交換を随時実施し、職員個々のレベルアップに繋げている。
- 防火管理講習会のオンライン化や消防法令関係等届出書・各種報告書について、年度内の電子化に向けた諸課題を精査検討中。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）出火防止や被害軽減を図る予防広報の推進
- 農繁期や冬季に向け、火を使用する機会が増加することを見据え、火災予防警戒巡回を推進するほか、年度末の春先におけるゴミ焼き等からの延焼火災防止に向けて早期の警戒巡回の強化と各種火災予防広報を推進する。
- 引き続き、警察や市建築部局、消防団との連携強化を図る。
- 高齢者を対象とした「いきいきサロン」による火災予防啓発の推進（今後6回開催予定）のほか、引き続き各種情報発信ツールを活用した予防広報を継続していく。
- 住宅用火災警報器の設置拡大とあわせ適切な維持管理を目的とした座談会の開催のほか、チラシ配布、かまくらFMなど様々なツールを活用した広報を行うとともに、住宅訪問による個別広報活動を継続する。

（2）事業所に対する適切な防火指導の推進
- 新たに覚知した重大違反対象物1件の早期違反是正を優先的に行いながら、立入検査や危険物施設検査で覚知した違反についても関係者に対して粘り強い指導を行い、早期改修を図る。
- 引き続き危険物安全協会との連携を密にした危険物施設に対する適正指導のほか、合同研修を実施することで事故防止対策を図り、無事故を継続する。

（3）人材育成と効率的な職場環境の推進
- 下期においても、「火災原因損害調査」や「防火査察」の実地業務で若手職員に対する指導を推進するほか、実火災を想定した実習を行うことで職員のスキルアップを図る。
- 消防大学校や専科教育の修了者による合同研修会の実施により、職員の技能向上を図る。
- 予防技術検定受験者に対し、資格者や予防課員を中心にきめ細かいサポートを行うことで合格者の増加を推進する。
- 消防法令関係等届出書・報告書について、年度内の更なる電子化と、防火管理講習会のオンライン化を目指す。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防本部 警防課の方針書

組織名	消防本部 警防課
所属長名	菊地　政嘉

1. 組織の使命（ありたい姿）

誇りを持って、組織の力で災害から市民を守る

2. 組織の抱える課題（現状）

1、安全管理体制の強化と人材育成
2、組織的な災害対応力の向上
3、車両及び資機材等の適正な維持管理

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、現場指揮体制の強化と人材育成
2、時代に即した災害対応力の向上と組織的活動の強化
3、消防施設の整備計画の完全実施

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	現場指揮体制の強化と人材育成
	取組内容	1、指揮隊を中心とした部隊運用訓練の実施 2、機関員の育成と資格保有者の技能向上 3、特別救助隊員の育成と技能向上訓練の実施
(2)	実現したい成果	時代に即した災害対応力の向上と組織的活動の強化
	取組内容	1、時代に即した部隊訓練の実施 2、消防団との連携強化に向けた訓練の実施 3、消防訓練大会のあり方に関する検討
(3)	実現したい成果	消防施設の整備計画の完全実施
	取組内容	1、消防署及び消防団の車両、資機材等の更新と適正な維持管理 2、消防水利の計画的な整備と維持管理

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）現場指揮体制の強化と人材育成
・機関員の育成として各所属の訓練計画に基づく走行及び機関操作訓練を実施したほか、化学車やCAFS車等特殊車両の機関員資格など新たに17名が取得した。
・新規特別救助隊員4名、新規水難救助隊員2名の養成を実施したほか、横手川での水難救助訓練や車両破壊訓練を実施し、技能向上を図った。

（2）時代に即した災害対応力の向上と組織的活動の強化
・各所属の訓練計画に基づく各種災害対応訓練を実施し災害対応力の向上を図ったほか、火災初動時の活動訓練を実施し現場到着から放水開始までの迅速化を図った。
・増田町真人山での山岳救助訓練を実施し、部隊の連携強化を図った。
・消防団と連携した救命ボートの操船訓練を実施したほか、実災害を想定した連絡訓練や救出訓練を実施し、連携強化を図った。
・消防訓練大会における新たな種目の実施に向けたプロジェクトチームを消防本部内に設置し、実施要領等の具体的な検討を行った。

（3）消防施設の整備計画の完全実施
・消防署化学車1台、消防団車両3台、消防団小型ポンプ12台の更新のほか、消防団ポンプ置場1棟、耐震性貯水槽3基の建設について契約締結を行い、耐震性貯水槽測量設計調査業務委託3箇所については事業が完了した。
・消防団車両、資機材等について毎月点検を行い維持管理を実施した。
・消防水利の整備に向けて関係部局と協議したほか、消防水利の定期点検を実施し維持管理に努めた。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）現場指揮体制の強化と人材育成
・災害時における新指令システムを活用した指揮運用訓練を実施し、指揮体制の強化及びシステム操作の習熟を図るほか、新規小隊長級の職員を対象とした小隊指揮訓練を実施し、指揮隊との連携強化を図る。
・S級機関員（救助工作車）1名、A級機関員（はしご、化学、CAFS、タンク車)11名、ドローンパイロット12名を養成し、部隊の強化を図る。
・新規特別救助隊員4名、新規水難救助隊員2名の養成を継続し、技能向上を図る。

（2）時代に即した災害対応力の向上と組織的活動の強化
・火災現場での隊員の危険回避行動（ファイヤーファイターサバイバル）訓練を実施し、対応力の向上を図る。
・NEXCO及び北上消防本部との秋田自動車道トンネル防災訓練を実施し、関係機関との連携強化を図る。
・解体家屋を利用した破壊訓練を実施し、屋内進入技術の向上を図る。
・消防団との合同車両破壊訓練を実施するほか、機関員講習並びに団指揮及び活動要領講習を実施し、連携強化を図る。
・消防訓練大会の新たな種目の実施要領について、年度内の策定を目指す。

（3）消防施設の整備計画の完全実施
・2か年計画で更新予定の消防署化学車1台の進捗確認のほか、消防団車両3台、消防団小型ポンプ12台の更新配備、消防団ポンプ置場2棟、耐震性貯水槽3基の完成を目指す。
・消防団車両、資機材等について点検結果を基に修繕等を行い、適切な維持管理を継続する。
・水道管布設工事に伴う消火栓の新設や整備を進めるほか、消防水利の定期点検等を実施し維持管理に努める。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防本部 救急課の方針書

組織名	消防本部 救急課
所属長名	原田　明宏

1. 組織の使命（ありたい姿）

市民の声に誠意をもって寄り添い、安心が得られる救急業務を行います

2. 組織の抱える課題（現状）

1、救急隊員の育成
2、救急車両・資器材の整備推進
3、市民への広報の促進

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、市民の期待に応える救急隊員の育成
2、救急体制の強化と時代に即した救急活動の実践
3、救急業務に関する広報と事故予防の啓発

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の期待に応える救急隊員の育成
	取組内容	1、指導救命士による教育訓練の強化 2、事故防止を徹底し、安全迅速な救急搬送を推進する 3、気管挿管認定救命士の養成
(2)	実現したい成果	救急体制の強化と時代に即した救急活動の実践
	取組内容	1、救急車、高度救命用資機材の更新と適切な維持管理 2、マイナンバーカードを活用した実証事業による救急活動の迅速化と円滑化の検証 3、薬剤投与に係る効果の検証とインシデント防止の徹底
(3)	実現したい成果	救急業務に関する広報と事故予防の啓発
	取組内容	1、救命講習によるバイスタンダー育成の推進 2、各種イベントにおける救急業務に関する情報発信 3、熱中症や雪による事故など、病気や怪我の予防広報の推進

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民の期待に応える救急隊員の育成
・秋田県指導救命士会において実施された先進的な心肺蘇生法の研修会に、当本部から6名の指導救命士が講師として参加。講習内容を本部内でも合同訓練等に取り入れ、全隊員へ教育している。
・日常訓練において交通事故防止や活動中の不慮の事故防止等について検討する機会を設けており、今年度これまで事故、公務災害等発生していない。
・気管挿管認定救命士の新規養成が開始され、1名が病院実習を実施している。また、認定救命士2名が必要な実習を修了し、認定を更新した。

（2）救急体制の強化と時代に即した救急活動の実践
・新救急車2台の納車が10月９日を予定しており、納車まで及び納車当日のスケジュールを設定した。指令室、各分署との連携を密にし、各業者と日程等調整を図った。また、高度救命用資機材の納入は12月と決定している。
・マイナ救急資機材が9月16日納品。10月１日の運用開始に向け規約、手順等を整理し、機材の設定作業と隊員向け説明会を完了した。
・いち早い薬剤投与による社会復帰率の向上を目指し、本年1月から現場での処置を推奨している。9月末までの全薬剤投与件数は38件であり、このうち現場での早期薬剤投与件数は10件、心拍再開は7件（70％）であった。救急車内収容後の投与件数は28件で、心拍再開は5件（17.9％）であった。症例数が少ないため継続した検証が必要だが、現時点のデータからは早期薬剤投与の効果が期待される。
・在庫を含む薬剤管理は使用前、使用後及び毎月の点検にて徹底し、紛失等事故防止に努めている。

（3）救急業務に関する広報と事故予防の啓発
・普通救命講習令和6年度の年間受講者数739名に対し、令和7年度9月末まで約半年間の受講者数は延べ434名であった。
・マイナ救急実証事業開始について、ホームページ、市報等様々な媒体で市民向け広報を実施した。
・映像通報システム運用開始について、救命講習会受講者へチラシを配布し広報を実施した。
・熱中症予防の広報を、健康推進課、通信指令室の協力を得てチラシの配布、ホームページへの掲載、災害案内ダイヤル等で実施した。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民の期待に応える救急隊員の育成
・新任救命士合同訓練、救急隊合同研修を計画中であり、現場対応力の向上と先進的な技術の習熟を図る。
・11月７日開催予定の県南5消防本部救急技術訓練大会に参加し、他の消防本部との交流をもって活動要領や資機材取扱等の情報交換を行う。
・長期休業等により現場活動から離れていた救命士の復帰支援プログラムを策定し、指導救命士を講師として再教育を行う。
・インシデント事案について調査集約中であり、日常訓練の教材として活用し事故防止を図る。
・気管挿管新規認定に引き続き、当本部としては初となるビデオ喉頭鏡認定救命士1名を養成する。

（2）救急体制の強化と時代に即した救急活動の実践
・12月納入となる高度救命用資機材を適切に管理し、トラブル発生を防止する。
・マイナ救急に関する機材の安全確実な取扱いと規約等の遵守により、マイナカード取扱いに伴う事故発生を防止する。
・薬剤投与の効果に関して、運用開始したばかりのため症例数が少ないが、今後データを収集しながら検証し、より効果的な現場活動を目指す。また、心配されたインシデント等は発生しておらず、引き続き安全な活動を継続する。

（3）救急業務に関する広報と事故予防の啓発
・中学校、高校へ救命講習会開催の案内を行い、若年層に対して応急手当の技術を広く啓蒙する。
・10月13日救急フェア・救急のつどいを開催、10月26日わくわく消防広場を開催し、救急業務に関する普及啓発を推進する。
・夏季の熱中症予防広報に続き、寒冷期の救急事故予防についての広報を実施する。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防本部 通信指令室の方針書

組織名	消防本部 通信指令室
所属長名	竹澤　全元

1. 組織の使命（ありたい姿）

迅速・確実な119番対応で、24時間、市民の命と生活を守る

2. 組織の抱える課題（現状）

1、災害通報対応とシステム運用技術の向上
2、通信指令施設の安定稼働と新システムの整備
3、多様化する災害通報等への対応

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、市民から信頼される通信指令員の育成
2、高機能消防指令センターの適切な保守管理と確実な新システムへの確実な移行
3、新たな通報システムの導入とわかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民から信頼される通信指令員の育成
	取組内容	1、システム停止訓練や外国人対応など各種訓練によるシステムの精通と対応力向上 2、119番通報対応における対人コミュニケーションスキルの向上 3、応急手当口頭指導要領、緊急度判定要領の向上
(2)	実現したい成果	高機能消防指令センターの適切な保守管理と新システムへの確実な移行
	取組内容	1、指令システムやデジタル無線システムの適切な保守管理 2、新システム移行に向けた操作研修、訓練の実施 3、高機能消防指令センター更新工事の着実な進捗管理と事業完了
(3)	実現したい成果	新たな通報システムの導入とわかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
	取組内容	1、映像通報システムの導入と運用開始 2、高齢者や外国人など市民に対するわかりやすい119番通報のかけ方の啓発 3、障がい者に対する緊急通報システムの啓発

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民から信頼される通信指令員の育成
・システム障害時や特殊事案に迅速に対応するため、各種計画訓練を毎日実施。
・救急通報対応要領向上のための指令室所属の救急救命士4名による指令員への助言と教育の継続。
・市民の心肺蘇生実施率令和7年度上期73.1％（令和6年度上期72.9％令和5年中全国51.8％）
・指令業務、事務ミス防止のため各種情報、対応要領の可視化による共有、引継の徹底。

（2）高機能消防指令センターの適切な保守管理と新システムへの確実な移行
・指令システム、無線システムは指令員による毎日点検、週1点検を行い適切な管理を継続中。
・指令員、消防署勤務者向け新システムの操作研修、訓練カリキュラムを作成中。
・高機能消防指令センター更新工事定例会議を9月末まで6回実施。発注した各機器の工場検査を終え、順次機器が納品され接続確認を実施中。（8月末　工事進捗率83.3％）

（3）新たな通報システムの導入とわかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
・6月1日より映像通報システムのプレ運用を開始し12月の本運用に向け市民への周知と通信指令員の対応技術の向上や運用マニュアルの見直しなどを実施中。（映像通報実施件数12件　内訳　火災6件　救急6件）
・「いきいきサロン」による高齢者への通報要領の啓発。（14回171名参加）
・新規障がい者手帳交付者等に対するNET119緊急通報システムの希望調査の実施。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民から信頼される通信指令員の育成
・多様な通報に対応するため、外国人対応訓練の計画及び実施と各種計画訓練を継続。
・更なるスキルアップのために、県主催通信指令員研修受講者によるフィードバック教育の実施や救急救命士による指令員へのOJT継続。
・ヒューマンエラー回避、事務処理ミス根絶のため確実な情報共有、引継の継続。
・指令員の知識、技術向上のため、11月開催予定の県主催通信指令員研修へ1名参加。

（2）高機能消防指令センターの適切な保守管理と新システムへの確実な移行
・消防指令センターの安定稼働を図るため、各種システムの適切な保守管理と運用の継続。
・指令員、消防署勤務者を対象に新指令システム運用訓練を実施し確実なシステム移行を完了する。
・来年3月の新高機能消防指令センター完成に向け、確実な進捗管理及びベンダー、コンサルタントとの円滑なコミュニケーションによる事業の継続。

（3）新たな通報システムの導入とわかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
・12月に本運用を開始する119番映像通報システムについて、試行運用の結果を踏まえ市民の安全安心を守る効果的な運用を行います。
・災害弱者の安全、安心のために、「いきいきサロン」による高齢者への通報要領の啓発を推進するとともに（6回開催予定）、外国人対応訓練を実施する。
・上期に実施した、NET119緊急通報システムの希望調査結果に基づき、利用希望者に対する個別説明を実施予定。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防署の方針書

組織名	消防署
所属長名	中川原一智

1. 組織の使命（ありたい姿）

誇りとプロ意識を持って災害に立ち向かい市民を守る

2. 組織の抱える課題（現状）

・人材育成の推進
・災害対応力と消防体制の強化
・消防団との連携強化
・火災予防対策の強化

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、市民の信頼と期待に応える人材の育成
2、安全確実な業務遂行と災害対応力の強化
3、出火防止及び火災予防対策の強化

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の信頼と期待に応える人材の育成
	取組内容	1、若年職員の各種資格取得の推進 2、災害対応要領や火災予防対策に係る、時代に即した知識技術の習得 3、不祥事、ハラスメント防止対策の推進と、心身の健康維持
(2)	実現したい成果	安全確実な業務遂行と災害対応力の強化
	取組内容	1、公務災害及び各種事故防止に向けた対策の実施 2、時代に即した各種部隊訓練の実施 3、消防団との連携強化に向けた各種訓練の実施 4、消防訓練大会のあり方に関する検討
(3)	実現したい成果	出火防止及び火災予防対策の強化
	取組内容	1、出火防止に向けた適時的確な予防広報の実施 2、一般家庭の住宅用火災警報器の設置と維持管理広報の推進 3、各種事業所の消防法令違反の是正

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民の信頼と期待に応える人材の育成
・化学車、CAFS車等特殊車両の機関員資格など新たに17名が取得したほか、移動式小型クレーン、玉掛け資格を3名取得した。また、特別救助隊員4名、水難救助隊員2名の養成訓練を実施した。
・火災現場での隊員の危険回避行動（ファイヤーファイターサバイバル）訓練を実施し、隊員個々の資質向上を図った。
・コンプライアンス活動やミーティングを実施し、不祥事及びハラスメントの防止を図ったほか、惨事ストレス対策要綱に基づき各出動隊がミーティングを実施し、ケアを必要とする職員の発生はなかった。また、各所属ごとに体力錬成記録表を作成し全署で共有しながら体力の増進を図った。

（2）安全確実な業務遂行と災害対応力の強化
・危険予知トレーニング、ヒヤリハット事例の検討を毎朝実施し、公務災害及び交通事故の防止を図った。
・火災対応力強化のため、論理的知識と技術に基づいた実戦的総合訓練を実施したほか、先進的な心肺蘇生法を取り入れた合同訓練を実施し、救急隊員の資質向上を図った。
・救助技術を競う大会において県3位となり、県代表として東北大会に出場し技術の向上を図ったほか、河川での水難救助訓練、車両破壊訓練、解体予定建物を利用した壁体破壊訓練などを実施し、隊員及び部隊の強化を図った。
・消防団に対し消防操法、水防工法、救命ボート講習などを実施したほか、火災鎮火後の警戒活動を消防団と連携し行い、再燃防止の徹底を図った。
・消防団員の負担軽減を考慮した新たな訓練種目の発足に向け、プロジェクトチームを立ち上げ、素案を作成した。

（3）出火防止及び火災予防対策の強化
・火災発生危険の高い春の時期に巡回や広報を強化したことで火災の減少に繋がった。
・住宅用火災警報器未設置世帯へ広報活動を実施し183件の設置増加となった。
・各事業所への立入検査を307件実施したと共に、関係者との協議を進め、年度内の早期是正に向けた指導を行った。
また、年度当初の重大違反施設3件については是正を完了した。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民の信頼と期待に応える人材の育成
・S級機関員（救助工作車)1名、A級機関員（はしご、化学、CAFS、タンク車）11名、ドローンパイロット12名を新たに養成するほか、新規特別救助隊員4名、新規水難救助隊員2名の養成を継続する。また、新任救命士合同訓練を開催し、若年救命士のスキルアップを図る。
・火災現場での隊員の危険回避行動（ファイヤーファイターサバイバル）訓練を継続し、隊員の対応力強化を図る。
・先進的な心肺蘇生法を取り入れた総合的訓練を継続し、救急隊員の資質向上を図る。
・各種救助訓練を継続するほか、山岳救助訓練を実施し、隊員及び部隊の強化を図る。
・引き続きコンプライアンス活動やミーティングを実施し、不祥事及びハラスメントの防止を図る。

（2）安全確実な業務遂行と災害対応力の強化
・危険予知トレーニング、ヒヤリハット事例の検討を継続し、公務災害及び交通事故の防止を図っていく。
・論理的知識と技術に基づいた先進的実戦訓練を継続し、隊員の資質向上を図る。
・各種救助訓練を継続するほか、解体予定の建物を活用した総合訓練や、山岳救助訓練を実施し、部隊強化を図る。
・秋の火災予防運動での駆けつけ放水訓練等の各種訓練や指揮訓練、広報活動等において消防団との連携強化を図る。
・消防団員の新たな訓練種目について実施要領を完成させ、次年度実施に向け準備を完了する。

（3）出火防止及び火災予防対策の強化
・秋の農繁期をはじめ火災危険の高まる時期を逃すことなく、今後も巡回や広報を継続していく。
・秋の火災予防運動などで、住宅用火災警報器未設置世帯へ訪問し広報活動を実施する。
・防火対象物の重大違反を含む違反の是正に向け、関係者との協議を重ね予防課と連携し違反全ての是正を目指す。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防署　平鹿分署の方針書

組織名	消防署　平鹿分署
所属長名	齊藤　公治

1. 組織の使命（ありたい姿）

誇りとプロ意識を持って災害に立ち向かい市民を守る

2. 組織の抱える課題（現状）

1、人材の育成と組織力強化
2、安全確実迅速な業務の遂行
3、火災予防思想の普及啓発

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、市民の負託に応える人材の育成と組織力の強化
2、安全確実迅速な業務遂行
3、火災予防思想の一層の普及を図り、市民の生命と財産を護る

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の負託に応える人材の育成と組織力の強化
	取組内容	1、複雑多様化する災害現場に即応するため、職階に応じた教育訓練を実施 2、個々のパフォーマンスを最大限発揮できる組織づくりを目指し、良好な人間関係の構築と健康を基本としたワークライフバランスの実現を図る
(2)	実現したい成果	安全確実迅速な業務遂行
	取組内容	1、個々の危険予知力向上を図り、安全管理の徹底と公務災害並びに各種事故を根絶 2、迅速確実な情報伝達に向けた消防団並びに関係機関との連携強化
(3)	実現したい成果	火災予防思想の一層の普及を図り、市民の生命と財産を護る
	取組内容	1、住宅用火災警報器の設置および維持管理の推進と、火災予防思想の普及啓発 2、各種事業所の消防法令違反の是正

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民の負託に応える人材の育成と組織力の強化
・災害現場を想定しての火災戦術訓練や救急処置訓練をはじめ、職階に応じた教養訓練を主眼に定期的に実施した。
また先進的知識と技術の習得を目指し、他消防機関の災害事例を参考とした火災戦術等勉強会も実施した。
火災防御等訓練：21回、救急処置等訓練：19回、火災戦術等勉強会：9回実施。
・「健全な組織づくりは個々の健康から」を念頭において、個人だけでなく職場全体で互いの健康等に配慮すべく指導するとともに、健康診断や再検査等の積極的な受診を促した。

（2）安全確実迅速な業務遂行
・毎日のミーティングはもちろん、教養訓練におけるヒヤリハット事例や他消防機関の事故事例を全員が共有することで、危険予知能力の向上を図り、現場における安全管理の徹底と事故根絶に向けチーム一丸となって取り組むよう努めた。車両関係訓練：27回、各種資器材操作訓練：34回実施。
・地区防災訓練をはじめ各種消防訓練並びに講習会等を各支団及び地域局と連携を密にしながら合同で実施することで、一層の連携強化を図った。

（3）火災予防思想の一層の普及を図り、市民の生命と財産を護る
・火災予防週間における予防広報のほか避難訓練や業務出向等を利用し、住宅用火災警報器の奏功事例を挙げながら、その必要性と重要性を広報し、防火思想の普及啓発に努めた。また、警戒巡回時に枝焼等の行為を発見した場合は、注意喚起の声掛けをするなどし積極的に火災予防広報に努めた。
平鹿管内の住宅用火災警報器未設置世帯調査により、新たに44世帯設置増加となる（令和7年9月末現在）。
・各事業所への立入検査を計画をもって順次実施し、消防法令違反があった場合は、改善に向けて迅速かつ粘り強く説得し指導を行った。
立入検査（危険物施設含む）実施件数35件、うち違反等対象物15件、改善済み件数5件（令和7年9月末現在）。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民の負託に応える人材の育成と組織力の強化
・上期を終え基本的な訓練は一定程度実施しているが、災害現場は一つとして同じものが無いことから、現場活動において個々のパフォーマンスを最大限引き出せるよう、引き続き知識と技術の習得を目指すとともに、今後は冬季に備えた応用訓練等も取り込むなど更なる訓練を実施する。
・日常から何気ない会話を通して互いの心身を理解することで、これまでハラスメントも含め体調不良者の発生は見られない。今後も風通しの良い職場環境作りを継続していく。

（2）安全確実迅速な業務遂行
・ヒヤリハットや安全管理については、常に自分事として考え一人一人の心に響くような指導教育を模索し、年度末に向けて更に安全管理を徹底していく。
・関係機関とは「報告・連絡・相談」を第一としてきた結果、これまで順調に連携がとれているものと感じる。今後は災害発生の危険性が増える冬季に向けて更なる連携強化に努める。

（3）火災予防思想の一層の普及を図り、市民の生命と財産を護る
・火災予防運動や各種業務出向等を利用して住宅用火災警報器設置の普及啓発を実施し、防火思想の浸透に努めている。また、枝焼等の焼却行為については警戒巡回時において積極的な声掛けを実施した結果、若い世代の行為者を中心に着実に防火意識の向上につながっており、今後も継続し実施していく。
・消防法令違反の早期是正に向け、今後も粘り強い改善指導を継続していく。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防署　西分署の方針書

組織名	消防署　西分署
所属長名	阿部　茂樹

1. 組織の使命（ありたい姿）

誇りとプロ意識を持って災害に立ち向かい市民を守る

2. 組織の抱える課題（現状）

1、人材育成と職員の資質向上
2、安全確実迅速な業務の遂行と各種事故の根絶
3、消防団との連携強化
4、火災予防対策の強化

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、誇りとプロ意識を持ち市民の信頼と期待に応える職員の育成
2、安全確実迅速な業務遂行と災害対応能力の強化
3、出火防止及び火災予防対策の強化

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	誇りとプロ意識を持ち市民の信頼と期待に応える職員の育成
	取組内容	1、職員の各種資格の取得と先進的知識技術の習得 2、心身の健康維持の推進 3、チームワークの向上、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）の励行
(2)	実現したい成果	安全確実迅速な業務遂行と災害対応能力の強化
	取組内容	1、安全管理の徹底と公務災害、各種事故の根絶 2、時代に即した部隊訓練を実施し、判断力、対応力を強化 3、消防団、地域局、関係機関と連携した想定訓練の実施
(3)	実現したい成果	出火防止及び火災予防対策の強化
	取組内容	1、各種事業所の消防法令違反の是正 2、一般家庭の住宅用火災警報器の設置と維持管理の推進 3、出火防止対策に向けた予防広報の実施

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）誇りとプロ意識を持ち市民の信頼と期待に応える職員の育成
・各研修会、講習会の受講や資格取得により、職員の能力向上や安全な活動要領の習熟を図る。
・現場活動時の惨事ストレス対策として、マニュアルを活用し隊員の心的ストレスケアを実施し、健全な心身を保持したチーム全体の戦力向上を図っている。
・全職員が、災害現場の最前線で市民を守る消防職員としての誇りを自覚し、市民目線で災害に対応している。

（2）安全確実迅速な業務遂行と災害対応能力の強化
・毎当務においてKYT（危険予知訓練）、ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有するとともに、訓練を通じて意識向上を図り、公務災害や無事故無違反を継続中。
・訓練月間予定表に基づき各種訓練を115回、教養訓練48回、救急活動日常訓練38回、総合訓練8回実施。併せて、A級機関員（タンク車）とB級機関員（ポンプ車）各1名を育成するため訓練を継続中。
・新たな火災戦術訓練など時代に即した先進的知識及び技術の習得や実戦的な訓練を継続中。
・各地区消防支団と水防講習会、救命ボート取り扱い訓練、重要文化財防災訓練等、各種訓練を実施。

（3）出火防止及び火災予防対策の強化
・危険物施設や防火対象物の違反について、定期的に状況を確認し違反是正に向けて対応中。
また、年度当初の重大違反施設1件については是正を完了した。
・住宅用火災警報器の未設置世帯調査を実施し、雄物川、大森、大雄の3地区で新たに56世帯の設置増加となる。
・各種イベントにおける車両展示や、警察と合同で野焼き禁止広報を実施し、市民へ防火意識の啓蒙と住宅用火災警報器の設置を呼びかけた。
・通常時の業務出向に加え、災害発生の危険度が高まる気象状況時に応じて早期の警戒巡回を73回実施し、ゴミ焼等の行為を発見した場合は、注意喚起の声掛けを行い火災の未然防止に努めた。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）誇りとプロ意識を持ち市民の信頼と期待に応える職員の育成
・各研修会、講習会の受講や資格取得した職員による伝達講習を行い、現場活動での知識や技術を継続的に習得する。
・惨事ストレス対策について、早期発見と初動対応が最重要であり、出動後のミーティングを継続する。
・5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）の励行を継続する事で、市民に不快感を与えないことや現場活動での安全管理に繋げていく。

（2）安全確実迅速な業務遂行と災害対応能力の強化
・毎当務においてKYT（危険予知訓練）、ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例の共有を継続する。
・冬季を迎え危険要因が増加することから、今まで以上に慎重な車両運用が行えるよう教養と訓練を継続する。
・時代に即した先進的知識及び技術向上を図るため、隊員の危険回避行動（ファイヤーファイターサバイバル）訓練や区画火災態様訓練を数多く実施する。
・各消防支団の放水訓練、救助資器材での車両破壊救出訓練、水害行動訓練等を各地域局や市民も含めて実施し、関係機関との緊密な連絡体制を維持する。

（3）出火防止及び火災予防対策の強化
・危険物施設や防火対象物の違反について、対象物側の事情に寄り添い根気強く違反是正に向け対応する。
・各家庭を訪問して住宅用火災警報器の調査と設置指導を行うことで、設置率向上を図ると共に、各種イベント等で車両展示を行い、市民へ防火意識の啓蒙と住宅用火災警報器の広報を行う。
・冬季を迎え定期的に自然水利状況と道路状況を確認するとともに、災害発生の危険度が高まる気象状況に応じて警戒巡回を強化する。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防署　南分署の方針書

組織名	消防署　南分署
所属長名	佐々木　建夫

1. 組織の使命（ありたい姿）

市民に寄り添う、誠実公正な消防職務の遂行

2. 組織の抱える課題（現状）

1、人材育成と資質向上
2、安全確実な業務遂行
3、火災予防対策の強化

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1、健全で誇りを持った職員の育成
2、安全確実な業務の遂行と災害対応力の強化
3、火災予防対策の強化

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	健全で誇りを持った職員の育成
	取組内容	1、職員の健康増進支援と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）の励行 2、職員の各種資格取得の推進 3、ハラスメント防止対策の推進
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行と災害対応力の強化
	取組内容	1、公務災害及び各種事故の根絶 2、先進的知識、技術の習得と、時代に即した部隊訓練を実施 3、関係機関（消防団、地域局等）との連携強化、各種訓練の実施
(3)	実現したい成果	火災予防対策の強化
	取組内容	1、事業所の適切な消防用設備等の設置、防火管理体制の推進 2、一般住宅の住宅用火災警報器の設置、維持管理の推進 3、出火防止対策など予防広報の推進

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）健全で誇りを持った職員の育成
・器具を使った体力錬成や、敷地内での運動に配慮し職員の健康増進を図った。
・市民が不快感を生じないよう「清潔で折り目のある服装」を指導し、庁内の清掃・整理・整頓を慣行した。
・A級機関員（CAFSタンク車）の資格を4名が取得した。
・ハラスメント防止及びコンプライアンスミーティングをとおして意識の向上を図った。

（2）安全確実な業務の遂行と災害対応力の強化
・ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有、検討するとともに、訓練を継続し判断力・技能を高め、公務災害及び公務での事故は無い。
・急流救助、緊急介入、区画火災態様訓練、都市型検索救助、ショアリング、狭隘空間救助、小型建設機械特別講習等技術の講習で得た知識や技術を署員にフィードバックした訓練を実施。
・消防訓練大会に向け、増田・十文字各地域局との打合せ、情報共有及び会場整備・運営を実施。
・消防訓練に向け、各地区消防支団へ操法指導を行い、技術向上と相互関係の構築に努め、十文字支団は全県消防訓練大会小型ポンプ操法で3位入賞した。
・駆付け放水訓練、救命ボート取り扱い訓練を各地区消防支団と実施。

（3）火災予防対策の強化
・事業所への立入検査を53箇所行い、適切な消防設備等の設置がなされてるか、防火管理体制が適切か検査した。管内での重大違反対象物は無い。
・住宅用火災警報器未設置宅の設置確認と普及啓発を行い、新たに29世帯設置増加。
・管内における火災予防警戒を159回行い、怪煙個所において注意喚起・指導を行った。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）健全で誇りを持った職員の育成
・5Sを励行し、市民に不快感を与えないよう取り組む。また、職場環境を維持し、運動促進や健診再検査者への受診を促進する。
・B級機関員1名、大型自動車免許取得1名、挿管認定救命士1名の資格取得を目指す。
・職員の言動や行動、心身の健康等、多方面からチェックし健全な職場環境を維持する。

（2）安全確実な業務の遂行と災害対応力の強化
・下期は雪による災害が見込まれるため、冬季特有のヒヤリハットを含め情報共有し、公務災害や交通事故等無いよう注意喚起する。
・安全管理を徹底し、反復訓練により対応力を高め、公務災害の無い迅速行動で災害に対応する。
・上期同様、先進的な消防技術の共有と、狭隘空間救助訓練による人命救出要領を習得し、部隊として活動できるよう応用火災戦術の実戦的訓練を行う。
・冬季の雪害や水害、水利確保について各消防支団及び地域局と連携し対応できるよう体制を向上させる。

（3）火災予防対策の強化
・引き続き事業所への立入検査を行い、消防法上適切な運用状況か確認をする。
・住宅用火災警報器未設置住宅を訪問し、火災発生時の有効性について説明し設置を促す。
・上期同様に火災予防警戒巡回を実施し、火気取扱注意を広く呼び掛ける。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

消防署　山内分署の方針書

組織名	消防署　山内分署
所属長名	佐藤　貴彦

1. 組織の使命（ありたい姿）

関係機関との連携を深めながら安全安心な街づくりをすすめます

2. 組織の抱える課題（現状）

1. 人材育成の推進
2. 各種災害の対応力強化
3. 火災予防対策の推進

3. 今年度の『スローガン』

誇りと責任を持ち、市民に寄り添う消防

4. 今年度の方針

1. 市民から信頼される人材の育成
2. 安全確実な業務の遂行
3. 建物、林野火災等の予防対策の推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民から信頼される人材の育成
	取組内容	1. 市民の立場を理解した適切な接遇 2. 不祥事、ハラスメント防止対策の推進 3. 体力増進、心身の健康維持と公務災害の根絶
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1. 適切な車両運用の徹底と危険予知能力の向上 2. 時代に即した各種訓練の実施による現場対応力の向上 3. 関係機関との連携強化によるチームワーク能力向上
(3)	実現したい成果	建物、林野火災等の予防対策の推進
	取組内容	1. 出火防止に向けた予防対策広報の実施 2. 防火対象物の消防法令違反の是正 3. 住宅用火災警報器設置と維持管理の推進

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）市民から信頼される人材の育成
・毎月実施するコンプライアンス活動や、横手市職員のマナーハンドブック等を活用し適切な接遇に努めた。
・コンプライアンス活動やチームミーティングを実施し、不祥事やハラスメントの防止を図った。
・筋力トレーニング器具を使用した体力錬成のほか、敷地内で暑熱順化トレーニングやランニングを実施し、体力の増進及び心身の健康維持を図った。
・危険予知トレーニングやヒヤリハット事例の検討のほか、各種訓練後にミーティングを行い、公務災害の防止を図った。

（2）安全確実な業務の遂行
・車両運行に関する危険予知トレーニングと併せ、交通事故事例や道路情報等を共有し、適切な車両運用を行った。
・火災現場における隊員の危険回避行動（ファイヤーファイタサバイバル）訓練を実施し、現場対応力の向上を図った。
・消防団や各関係機関との防災訓練や火災予防広報、並びに団への訓練指導等を通して、関係機関との連携強化を図った。

（3）建物、林野火災等の予防対策の推進
・火災予防警戒巡回（64回）及び、防災無線による広報（7回）を実施し、出火防止を図った。
・各事業所への立入検査を13件実施し、違反事業所10件のうち3件の是正を完了した。また、未改善の事業所についても年度内の早期是正に向けた指導を行った。
・住宅用火災警報器の未設置世帯を中心に調査及び広報を実施し、新たに4件の設置増加となった。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）市民から信頼される人材の育成
・横手市職員のマナーハンドブック等の活用やコンプライアンス活動を継続し、更なるサービス向上を目指していく。
・コンプライアンス活動やチームミーティングの継続と併せ、今後も職員間のコミュニケーションを深め、風通しの良い職場環境を構築していくことで不祥事やハラスメントの防止を図っていく。
・各種トレーニングを継続していくことで健全な心身を維持し、有事に強いチーム作りを進めていく。
・危険予知トレーニングやヒヤリハット事例の検討について、今後は冬季の対応を検討に加えながら、隊員の安全管理能力を向上させ公務災害ゼロを目指していく。

（2）安全確実な業務の遂行
・車両運行に関する危険予知トレーニングや交通事故事例について、今後は冬季の運行を踏まえた検討を実施し、道路状況等の情報共有を頻回に行いながら、より安全な車両運用を行っていく。
・火災現場における隊員の危険回避行動訓練と併せ、実戦的総合訓練を実施し、さらに現場対応力の向上を図る。
・冬季防災訓練や消防団との現場指揮訓練等を実施するほか、実災害現場での活動を含め連携強化を図っていく。

（3）建物、林野火災等の予防対策の推進
・秋の農繁期をはじめ、火災危険の高まる時期を逃すことなく、今後も巡回及び防災無線を活用した広報を継続する。
・防火対象物の違反の是正に向け、関係者への粘り強い指導を継続し、違反全ての是正を目指す。
・秋の火災予防運動などで、住宅用火災警報器未設置世帯へ訪問し広報活動を行い、設置率向上を目指す。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）